

東北大学で培った 仕事の原動力

松倉 隆一

一九八二年に東北大学に入學しましたので、今年でちょうど三十年になります。漠然とコンピュータの勉強がしたいと思っていたところ、情報工学科ができるらしいというので東北大学を選びました。大学院も含めて三年間、希望通りコンピュータ関係の研究室にお世話になりました。情報工学科ができたのが入学後だったので、卒業は通信工学科、修士課程は情報工学科となり、入社後は通信と情報との両方に関わる仕事に携わることになりました。入社当時、通信というとスーツにネクタイ、情報はジーパンにTシャツというくらい文化が違いましたので、スーツで通勤しながらも発想はジーンズのもりでした。

大学では、コンピュータにいつばい触れられる研究室に入りました。同じ研究室の先輩方には、作りたいものを説明する前にプログラ

ムができてしまうような強者が多く、とても刺激になりました。それ以上に刺激的だったのが、作ったプログラムがどうしてそうあらねばならないのかを議論する時間でした。毎週のように行われるゼミでは、教授、助教授の先生方から素朴な疑問が次々と投げかけられ、学生がその答えに窮するという連続でした。当時、このゼミが恐怖でたまりませんでした。「なぜ」という疑問を持ち続けること、この疑問に真正面から取り組むという姿勢は、社会人になつてからの私の原動力になっているに違いありません。

入社数年目のときにカメラ付きのタブレット端末の研究をしたことがあります。これもスーツを着てジーパンの発想でした。今こそ、タブレットやスマートフォンを電車の中で使う人が多くなりましたが、当時は携帯ネットワークす

らありませんでした。この新しい端末の説明をしようとしても、電車では人は雑誌を読んでいるか、寝ているかのどちらかで、携帯端末なんて必要ないという人もありました。「なぜ電車では人は寝ているのか?」「なぜ雑誌を読む以外のことができないのか?」、「なぜ」を突き詰めた結果、デジタルカメラとタブレットのいいところ取りした面白い端末ができ、雑誌などを取り上げられたりしました。最近流行のタブレット端末のようなものですが、残念ながら高価すぎて製品になりませんでした。

ずっとIT分野を歩んできましたが、最近では、災害に強いスマートフォンや人にやさしいスマートフォンに取り組んでいます。東日本大震災の震災復興に関係して、仙台を訪れることが多くなりましたが、私を育ててくれた東北大学、仙台に少しでも恩返しできればと思っています。



松倉 隆一(まつくら りゅういち)
1962年生まれ
出身学部 東北大学工学研究科
情報工学専攻修士卒業
現職 富士通株式会社
ネットワークソリューション
事業本部勤務

INFORMATION

2013年度
1月~3月
のご案内
18:00~19:45

東北大学

サイエンスカフェ・リベラルアーツサロン

会場/ せんだいメディアテーク1F/ 東北大学附属図書館(川内) ※3月1日(金)リベラルアーツサロン第21回のみ
2013年度 1月~3月の東北大学サイエンスカフェ・リベラルアーツサロンのテーマ、講演者をお知らせします。

参加費
無料

(事前申込は不要です。)



1月25日(金)サイエンスカフェ第88回
絆を支えるホルモン、オキシトシン
西森 克彦(東北大学大学院農学研究科 教授)



2月22日(金)サイエンスカフェ第89回
言葉がわかるコンピュータはどこまでできたか
~言葉の不思議と自然言語処理の最前線~
乾 健太郎(東北大学大学院情報科学研究科 教授)



2月1日(金)リベラルアーツサロン第20回
解体新書『捕鯨論争』
石井 敦(東北大学東北アジア研究センター 准教授)



3月1日(金)リベラルアーツサロン第21回
会場:東北大学附属図書館(川内)
表現主義とナチズム、芸術と政治
樺島 博志(東北大学大学院法学研究科・法学部 教授)

お問い合わせ | 東北大学総務部広報課 TEL.022-217-4977 ホームページ <http://cafe.tohoku.ac.jp/>

未来ある人材を育むために
東北大学基金へのご協力をお願いいたします。

東北大学基金事務局 | 〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
☎022-217-5905 ✉kikin@bureau.tohoku.ac.jp

<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kikin/japanese/>
東北大学基金 | 検索